

令和2年度入学者選抜試験問題（後期日程）
「総合問題（地域学部地域学科人間形成コース）」出題意図

問題Ⅰ

問題文は、加古里子『絵本への道——遊びの世界から科学の絵本へ——』（福音館書店、1999）の一部である。子どもの遊びの特徴や可能性、および大人が陥りやすい子どもの遊びに対する誤解について論じている文章であり、子どもの成長や発達について、改めて考えさせる内容となっている。文章を理解する力や文章を構成する力、および子どもの成長や発達について深く考えることのできる力について問う問題である。

問1

筆者が考える「子どもの遊び」の特徴とその可能性について適切に捉えるとともに、それを無視した「遊び」が、結果として子どもにとってマイナスの影響を与える可能性があることを指摘できるかをみる問題である。

問2

文章の話題の中心となっている「遊び」に対する捉え方の違いについて、子どもと大人の特徴に留意しつつ、内容に即してまとめることができるかを問う問題である。本文の内容を適切に理解しているかどうかを見るだけでなく、問いに応じた要約と文章表現が可能かどうかを確認しようとしている。

問題Ⅱ

厚生労働省平成30年版厚生労働白書が示した「図表1-1-3 共働き等世帯数の年次推移」および「図表1-8-1 育児休業取得率の推移」から、共働き世帯と専業主婦世帯（男性雇用者と無業の妻からなる世帯）数の推移および育児休業取得率の推移に関する客観的事実を読み取る力を問う設問である。

あわせて共働き世帯は、専業主婦世帯数を超えて1997年から増加する傾向にあるが、育児休業取得率の推移については変化に乏しいことから、その背景について検討する思考力や社会に対する問題意識を問う。

問1 図より読み取れる客観的事実を分析する能力を問う。

問2 図から読み取った客観的事実が生じている背景について検討するための思考力や社会に対する問題意識、およびそうした内容を論理的に表現する文章構成力を問う。